



農大二中進路通信

令和6年9月9日(月)
第8号 農二進路指導部

いよいよ二学期スタート!



一年のうちで一番長い二学期がスタートしました。素敵な夏休みを過ごせましたか? 昨年以上に、猛暑となり、巣ごもりの生徒も多かったことでしょう。それでもみなさんの中には旅行に行ったり、いろいろな活動に参加し、素晴らしい経験ができた生徒も多くいたことでしょう。そんな夏休みも終わり、先週から学校がスタートしました。かなり、長い休みだったのでまだまだ休みボケから抜け出せない生徒も多くいると思います。また、長い休みの後は大人、子供問わず何らかのストレスや、負担を感じるものです。もちろん、最初からエンジン全開で走れば良いですが、なかなかそういきませんので、徐々に学校生活に心と体を慣らしていきましょう。まずは規則正しい生活を送り、早寝早起きを心掛け、学習時間をしっかり取りましょう。そのためには休み中、怠っていた classi の入力もしっかりと開始していきましょう。さあ、2学期のスタートです。たくさんの行事がありますので、楽しみながら、挑戦していきましょう。

模試の復習が大切

夏休み中に駿台模試、4日に学力推移調査がありました。手ごたえはどうだったでしょう? テスト終わりに早速、模試のやり直しを開始した人がいました。ケアレスミスによる失点やよく考えればできた問題も多々あったように思えます。その一方でかなり大きな手ごたえがあった生徒もいたと聞いています。テストができればうれしいし、できなければ悲しいです。ただ、一喜一憂しすぎるのはよくありません。できなかったことができるようになればいいだけの話ですので、できなかつたところがあつた人はそれを自分の弱点だと捉えて、改善していきましょう。できた人はそれを自信に変えて、今後も引き続き頑張っていってほしいと思います。では、どのように模試直しをするかです。模試の解き直しには模試の復習ノートを活用してほしいと思います。ノート作成には以下のことを意識するといいと思います。

1. 正解できなかった問題、理解できていなかった問題だけを書き込む。または問題をコピーして貼る。これにより、自分の弱点のみを集めたノートが作成できます。この弱点のみを集めたノートを何度も復習することにより自分の弱点克服を図りましょう。
2. わからなかった箇所の注意点をノートに綺麗に書くことに注力するのではなく、自分の間違えたところや苦手分野がパッと見て分かるようなノートづくりを目指しましょう。解答部分に間違えた理由や、理解していない部分の詳しい解説、つまりきやすいポイントなども書き加えることで理解が深まります
3. 綺麗なノートを作るために、綺麗な字で書くことを意識しすぎたり、色使いに凝り、見た目が美しいノートを作ろうとすることは時間の浪費に繋がります。模試復習ノートの目的は、直前期に効率よく苦手範囲を復習できるようにすることです。多少、字が汚くても構いません。

まだ、模試直しをやっていない人はこれからしっかりやっていきましょう。勉強が作業になったら疲れるだけです。力をつけることを意識し、模試直しをやっていきましょう。

2024年夏！農二中生躍動！

8月3日(土)に科学の甲子園ジュニアの一次予選が行われました。科学の甲子園ジュニアとはJST(科学技術振興機構)が主催するもので、理科、数学など複数分野の筆記や実技競技に協働で取り組み、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材育成を目指す中学生のための科学の大会です。本校からは、以下の2年生の3チーム <Aチーム 金井大悟くん、萩原香乃さん、古川由依さん、B チーム 新井優太くん、堀田怜那さん、片山凜珠さん、Cチーム 大村夢乃さん、石井美紀さん、斎藤優朱さん>が出場し、A チームと B チームが1次予選を通過しました。9/14(土)に2次予選がありますので是非、がんばってほしいものです。

また、8月29日(土)、30日(日)にGPA2024 ゲームプログラミングハッカソンが実施されました。これは「ぐんまプログラミングアワード(GPA)2024」の一環として、群馬県内の小中学生にゲームプログラミングを学んでもらい、作品を生み出す喜びや、魅力を伝えるイベントです。4、5人一組のグループに分けた後、2日間でオリジナルゲームのアイデアを考え、2日目の最後に作品を発表したのですが、農大二中から2年生の加藤悠君が参加し、見事優勝を勝ち取りました。5月に本校で行われたプログラミングコンテストでも優秀な成績を収めましたね。プログラミングを得意とし、日ごろから、高い目標を持って頑張っている姿が印象的です。もちろん、技術や想像力は賞賛に値しますが、一番賞賛に値するのは自分から積極的に挑戦しているところです。結果はどうあれ行動する！これは自身の成長にとって大切なことです。

9月6日(金)には高崎市中学生英語弁論大会が実施されました。本校からは2年生の大村夢乃さんが出場しました。Saying “No” makes a difference.というタイトルで、自信の体験をもとに時に自分がされて嫌なことに対して NO ということ(自分の感情をしっかりと出す)、それがいじりやハラスメントの現状を変える鍵になるということを訴えました。高崎市の学校代表3年生26名との争いの中、大健闘し、8位入賞いたしました。ただ、本人とすると上を目指していたので残念という気持ちが強いですが、この悔しさをバネに来年も挑戦してくれることでしょう。

農大二中生はどんどん外に出ていってください。農二中は出る杭を打ちません。一人ひとりの「やりたい！」という思いを大事にします。外の世界を知ることで新しい価値観を手に入れることができます。人生を変える大きな出会いがあるかもしれません。そして、新たな世界を知れば知るほど、「何もない自分がどうすればできるのか」と不安に思いつつも、「チャレンジしてみたい」と思うようになってきます。自分の特性を考え、どんどんチャレンジしていきってほしいと思います。世の中にはもっともっと凄いヤツがいます！Be Challengers！



ゲームプログラミングハッカソン
ぐんまNo.1

加藤悠さん(農大二高等部2年)、鈴木湊介さん(太田宝泉東小6年)
福島歩夢さん(前橋みずき中1年)、吉永裕輝さん(邑楽中野小6年)

他県の名産品
避けゴールへ

ちねの産品をけな
がゴール目指すイ
ム二やまみレスを
作った。優勝が発表され
な瞬間、歓声を上げて喜
んだ。涙を浮かぶメ
ーシで制作した。連中
は「一人で思い付か
ないアイデアが出て面白
かった」と話し、鈴木さ
んも「思いにやれるこ
とをやって振り返っ
た。来場員実際にゲー
ムを体験して投票したた
め、応援してくれた人
に感謝したい」と涙をさ
ん。加藤さんは「達成感
がある」と笑顔で答えた。

の風や土に移動する
納豆などの障害物があ
る。それを出たあとに
力が減るが、燃きまじ
ゆうを取って回復。空
風が出現して進みにく
くなる演出も入れた。
4人はいずれも別々の
学校通い。今回が初対
面。レゴを叩きつけて打

9月2日 上毛新聞より

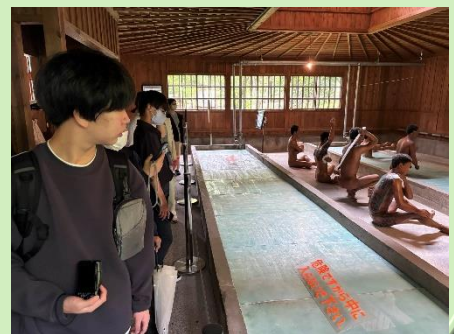
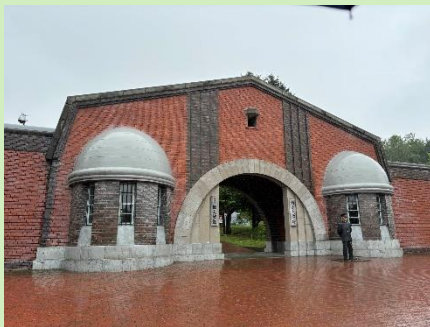


N-Science in Hokkaido

7月29日から8月1日に中等部、高校生合同で N-Science in Hokkaido 研修が実施されました。今回初めての試みとなりましたが、中高大連携の事業であり、理科分野での知見を広げるきっかけになりました。1日目はオホーツク流水館で流水がなぜできるかななどのメカニズムを学び、オホーツク臨海センターでは農大の先生より海洋生物についての講義を受けました。実際に水槽を見て、説明を聞きながら、生徒からは「淡水魚が、海水で生活すると死なずに変化することに驚いた。」などとさまざまな学びがあったようです。また、「流水に関する展示などを見てオホーツク海の地理的な特徴がわかるとともに、温暖化などによる環境の変化を感じました。」「タオルを回しているうちに凍っておもしろかった」など流水の世界を楽しみました。



2日目は網走監獄、北方民族博物館、農大オホーツクキャンパス、濤沸湖水鳥・湿地センターに行きました。写真でもわかるように当時の網走監獄の建物がそのまま残っているので、匂いがあったり、昭和の脱走王の話を聞きながら、その当時の様子を想像することができました。網走監獄に行った感想の中には「初めて実際に使われていた刑務所に入った。実際の刑務所の雰囲気や受刑者の過ごし方がよくわかった。特に脱獄王の話をガイドさんから聞いた後に実際の独房を見るとほんとにやったんだと感じられた。」



農大オホーツクキャンパスでは、学食で昼食を取り、その後香料に関する授業を受けました。生徒からは「初めて大学の授業を聞いたのですが、内容がとても面白かったです。甘い砂糖水に香りをつけるだけでその味のジュースになるのはびっくりでした。だからジュースには香料が多く含まれているんだなと感じたと同時に、そんなものを飲んでいたんだと驚きました。」と興味深く授業を受けていました。最後に訪れた家畜舎に行き、家畜についての説明を聞きつつ、シカやエミューと触れ合う機会がありましたが、みなさん楽しそうにえさを与えていました。



3 日目は知床での自然ツアーを行い、知床を歩いて植物を観察したり、風景を楽しみました。ガイドさんたちの説明も大変興味深く、知床の自然について多くのことが学べました。生徒からは「①新しい森と古い森の見分け方や、②新しい木の年齢の数え方、③ある特定の植物だけが生息している理由、④フレペの滝の意味や由来、⑤木が一つの方向にまとまって傾いていることの原因など、様々な自然の知識を獲得しました。」というように知床の自然に関して、学びが多かったものと思われます。崖から見るフレペの滝の美しさもさることながら、かわいらしい野生動物にも会えたことも大変良い思い出です。





4日目は釧路湿原にて釧路川下りを体験しました。初めての川下りに生徒たちは緊張しながらも大変興奮した様子で、協力しながらボートを漕げたようです。以下は生徒の感想です。「川下りで、あまり話した事のない人とも交流できました。」「自然の音に耳をかたむけるというコンクリートジャングルで普段生活している自分からしたらとても心安らぐ体験でした。」「幅が広くて、流れが緩やかな川は本州にはあまりないので、珍しいと思いました。北海道の広大な土地ならではの特征なのかなあと思い、本州と北海道の違いを実際に体感出来ました。」



四日間という短い期間ではありましたが、中等部、高校生ともに体験的な北海道研修を楽しめた様子でした。話を聞いたり、写真を見ただけではわからない、「体験したこと」は生徒たちの大きな財産になりました。こうした実際の経験を通じて理論を実践に結び付け、深い理解を得ることができます。そして、学んだ内容を自らの体験として体感することで、知識の定着が進み、問題解決能力や応用力が向上します。自ら積極的にいろいろなことを体験しよう行動してほしいと思います。また、来年も実施予定なので、中一生はぜひ参加してください。

今後の予定

9月14日(土)～15日(日)

9月25日(水)

10月1日(火)～3日(木)

10月8日(金)

10月10日(木)

10月18日(金)

10月26日(土)

10月30日(水)

中体連

中2川場収穫体験学習

中間テスト

体育祭

グローバルチャレンジ

中2総合学習ワークショップ③理化学研究所

中等部戦争学習

合唱コンクール

